

せんきゅうのジャガイモヒゲナガアブラムシ、ニンジンフタオアブラムシ（新寄主）

令和3年7月に帯広市内から採取したせんきゅうに2種のアブラムシが寄生しており、その後の十勝農業試験場内温室での隔離栽培中に増殖が確認された。1種目は下～上位葉まで植物体全体に寄生し、寄生個体数の多い葉では黄化や萎縮が観察された。無翅胎生雌成虫の体色は黄～緑色で、触角や脚部を除いた体長は2～2.5mm、触角は体長より長く、触角瘤はよく発達し、角状管円筒状で黒色の先端部付近を除き体色と同色、尾片は舌状で体色と同色であり、これらの形態的特徴から非寄主転換性で広食性のジャガイモヒゲナガアブラムシ *Aulacorthum solani* (Kaltenbach) と同定された。2種目は下位葉を中心に寄生していたが、前種よりも寄生個体数は少なく、顕著な被害は確認されなかった。無翅胎生雌成虫の体色は黄～黄緑色で、体長は1.5～2mm、触角は体長の半分より短く、触角瘤は発達せず、角状管は後半部で膨れて全体に体色と同色、尾片上部には尾片とほぼ同長の突起を有し、尾片は舌状で体色と同色であり、これらの形態的特徴から一次寄主のヤナギ類と二次寄主のセリ科植物とを寄主転換するニンジンフタオアブラムシ *Cavariella aegopodii* (Scopoli) と同定された。これらのアブラムシの寄生がせんきゅうで確認されるのは今回が初めてである。

（上川農試）



せんきゅうのジャガイモヒゲナガアブラムシ
（上川農試 佐々木大介 原図）



せんきゅうのニンジンフタオアブラムシ
（上川農試 佐々木大介 原図）